

## 【地域と地域】

「極点社会」が話題になっている（NHK「クロースアップ現代」5月1日放送）。二〇四〇年までに自治体の五割で若い女性が半減、五百をこえる自治体が「消滅へ」と推計される。若い女性は、福祉介護の労働力として東京に集中、「地方」よりよいものの、十分でない労働条件のため、非婚非出産が多いという。豊島区も消滅の可能性が指摘された。

東京に集中しつつ他の地域が崩壊していくことについて、生活教育では、それが日本の近代化の基本システムであり、それを支える教育システムが、学力テストを尺度とする〈村を棄てる学力〉の教育、地域から遊離し東京に行く教育だととらえ、3・11でそれが加速することを危惧してきた。各地で学校の統廃合に直面しつつ、「地域に根づく」教育実践をしてきた。

震災直後の二〇一一年愛知大会基調報告（案）「ほんとは資源のある日本で資源を活かした生活教育を―《ひとつながり》の《教育実践と地域計画》を構想して実現への一歩をふみだそう―」で、できるところからその地域の〈宝〉を見つめる教育実践をはじめつつ、

# 生活教育 キーワード

〈地域計画〉を意識した実践を呼びかけた。雄勝町と大熊町には、困難な中でも教育課程をつくりながら地域再生に取り組み自治体として注目してきた。

翌二〇一二年石川大会基調報告（案）「仲間とともに学び、希望を紡ぐ」は、元の副題が「子どもや自分の中にあちらの〈ひと・こと・もの〉を再発見して

《ひとつながり》のものへ！」で、自分のところの〈宝〉の発見をふまえつつ、自分の中に他の地域とのつながりを見出そうという提起だった。沖繩料理には、北海道の昆布がつかっている。1つの自治体だけでの再生は困難だ。これらの〈ひとつながり〉での再生が新しい「日本社会の基本問題」となる。それぞれの地域でそのつながりを〈掘りおこす〉のに、〈民俗学〉はかつおきんやの用水研究と同じく、豊かなヒントをくれる。

（研究部・加藤聡二）

### 参考文献

- ① 和歌森太郎『柳田國男と歴史学』日本放送出版会、一九七五年。
- ② 『定本柳田國男集第一四巻（新装版）』筑摩書房、一九六六年（木綿以前のこと）『食物と心臓』収録。